

平成27年度 学校自己評価表（実施段階）

那珂川町立 福岡女子商業高等学校

学校運営計画（4月）		評価（総合）		
学校運営方針	[教育目標] 日本を豊かにした商業教育の実践者として、日本一の女子商業高校を実現するため自らが三自の精神（自己発見・自己伸張・自己実現）を発揮し、「日々、基礎基本」の徹底に挑戦する。		A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>・自らの成長が実感できる教育活動を展開するという目標のもと教育活動に取り組み、生徒の基本的な生活習慣の確立を表す指標である全校生徒の出席率が数値目標を達成するなどの成果があった。しかし、以下の内容が課題となっている。</p> <p>1 各学期の欠点保持者数が多かったため、各学期の学力不振者へ継続的な指導を行い、生徒自らの力で成績不振が解消できるように指導を行う。</p> <p>2 教師が前面に出て、生徒への指導助言を行う場面が多かったため、行事・生徒会活動・部活動において、生徒の力をより引き出す指導に取り組む。</p> <p>3 安易な考えを持ち、専門学校進学する生徒が見受けられるため、生徒・保護者の希望をもとに生徒の適性に応じた就職や大学・短大への進学をすすめる。そのための動機づけを学年に応じて実施する。</p>	(1) 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自己実現を裏付ける力を育む。 学力の充実を図る。 		
	(2) 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立し、規律ある学校生活の中で女子商生としての資質を育む。 遅刻や早退、欠席者数を減らす。 		
	(3) 豊かな人格の形成	<ul style="list-style-type: none"> 志を育成し、最終学年ではリーダーとして活躍できるよう生徒の力を引き出す。 規範意識を高揚させ、規律ある生活態度を身につけさせる。 豊かな人間性を育む特別支援教育の推進。 		
	(4) キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の推進を図る。 就職・進学サポート体制の強化を図る。 		
	(5) 本校関係団体や地域との連携協力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動を積極的に行い、本校の魅力を伝える。 P T A等との連携を通して、本校教育への理解を深めていただく。 		
	(6) 人権・同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全教育活動における人権・同和教育の推進を図る。 自己肯定感を高め、お互いに尊重し合える人間関係を育てる。 		
	(7) 職員研修の充実と教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 本校の課題の解決や教員の資質能力の向上を目指し、校内研修を企画・実施する。 校外研修への教員の積極的な参加を促す。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
教務部	生徒に付けさせたい力の具現化	定期考査前の学習記録表の取り組みを、学習委員会の活動を通して、生徒自身の学習状況の把握と学習時間の確保に活かす。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●欠席数・遅刻数の増加している。欠課時数が増えることで、学力低下の原因になっている。 ●学力向上への取り組みを強化する。定期考査の日程に無理があり、学校行事を見直すことで、生徒への学習環境を整えることになる。また、学習委員の取り組みについて、クラス担任の理解と協力を得ながら徹底を図る。 ●分掌業務の改善策を検討する。所属職員間で連携を密にし、責任者と所属職員で連携して業務を遂行し、業務の熟練度を上げる。また、中学校訪問等、生徒募集については、独立分掌を立てるなどして強化する必要がある。
		朝読書の時間などで読んだ本について、生徒自身に振り返らせ、物事を考えたり、表現したりする機会を設ける。	B	
		正課授業時間以外の主体的・自主的な活動を促す（「活き行きtime」project 仮）に着手する。	C	
	長期欠席者や成績不振者への合理的配慮の検討	出欠集計や成績処理の情報を学年部に提供し、実態把握に努める。	A	
		長期欠席者や成績不振者に関する状況を学年部や保健環境部等と共有し、連携して生徒支援の方策を検討する。	A	
	中学生やその保護者、中学校の先生方へ女子商の魅力発信	体験入学や中学校の総合的な学習の時間の協力を通して、本校生徒による、中学生に対する女子商の魅力発信に努める。	A	
中学校訪問を計画的に行い、中学校の先生方に女子商についての理解を深めてもらうよう努力し、生徒募集へつなげる。		B		
生徒指導部	志を育成し、最終学年ではリーダーとして部活動、学校行事、生徒会活動、ボランティア活動などに参加できるよう生徒の力を引き出す。	学年集会や全校集会において生徒が自主的に集合・整頓できるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒主体の体育祭・クラスマッチに発展させる。今年度の取り組みから、更に生徒が主体的に計画・実施できるように教員が支援する。 ●学校生活アンケート等の結果にいち早く対応する。アンケート用紙のクラス全員の提出を待たずに、問題や課題を抱えている生徒を先に報告していただき、組織的に取り組む。 ●委員会活動を更に活性化させる。特に、自転車通学に関する安全面、身だしなみ等に関する風紀面についての主体的取り組みを支援する。
		生徒自ら学校行事や生徒会活動を計画し運営できるようにする。	A	
		学校の活性化のため、部活動加入率70%を目指す。	B	
	規範意識を高揚させ、規律ある生活態度を身につけさせる。また、交通教育を行い、交通社会人としての意識を養う。	生徒に校則の意味を理解させ、行動の手本となるように支援を行う。	B	
		自転車・ミニバイク通学生生に対し、学科・実技講習会を実施するとともに、自己責任において車両の安全点検が行えるよう支援する。	B	

平成27年度 学校自己評価表（実施段階）

那珂川町立 福岡女子商業高等学校

進路指導部	キャリア教育の推進	女子商マルシェに伴うインターンシップの経験を主体的な進路選択に繋げる。	B	B	<p>●本校のカリキュラムで可能な進学先を研究し、生徒・保護者に提示できるようにする。</p> <p>●進路だよりは学校行事等の関係で発行が難しい月もあり、発行予定月を再検討し、より有用な情報発信を行う。</p> <p>●進路指導部データ（模試結果や一般常識テスト結果等）の有効的な活用法をさらに研究する。</p>
		本校の就職指導員の社会経験を活かし、職業生活に係る講話等を実施し、生徒の職業に対する意識を高めさせる。	B		
		3年生による進路体験発表を実施し、1・2年生の進路意識の高揚を図る。	A		
	就職・進学サポート体制の強化	『進路だより』の発行部数を増やし、情報提供の場とする。また、ホームページの更新を定期的に行う。	A	A	
		面接指導の留意点を職員間で共通理解し、全職員による面接指導を実施する。	A		
		進路指導部・就職指導員および3年生担任による求人開拓を実施する。	A		
		三者面談をサポートし、職業観・勤労観の育成と有意な進学先選択の助言を行う。	B		
		入試形態に対応するため、外部模試業者や校内教員による職員研修を行い、情報交換と共通理解を進める。	A		
資格取得と基礎学力の定着、および進学希望に応じた課外授業を実施する。	A				
保健環境部	校内環境の整備と充実	日常の清掃活動と整理・整頓の徹底を行う。	B	B	<p>●ごみの分別を26年度の状況にまで、修正する必要がある。 紙ごみをはじめプラスチック類その他種々雑多なものが廃棄されている。</p> <p>●ごみの量を26年度の状況にまで、戻す必要がある。 26年度に比較して2倍以上のごみが職員を中心に廃棄されている。</p> <p>●日頃の体調管理について、さらに啓発していく必要がある。 睡眠や食事の問題等生活習慣を考えさせる啓発をしていきたい。</p>
		環境美化活動の活性化に努める。	A		
		普段からのごみ削減と分別を行う。	B		
	健康で生きていく力育成	生徒の動向を早期に把握し職員間で共有する。	B	A	
		生徒の精神的問題の早期発見と特別支援教育によるカウンセリング・支援などを実施する。	A		
		食育の特別授業を行い食の安心安全や地域の食について学習させる。	A		
	組織活動の活性化と充実	地震を想定した避難訓練と火災を想定した避難訓練の計画と実施による防災教育を生徒と職員に実施する。	A	A	
		生徒の病気急変や突発的事故発生時に迅速に対応できるための教職員連携を行う。	B		
		生徒委員会（保健委員会・清掃委員会）による自主的啓発活動を促す。	A		
研修部	校内研修を集約・精査し、本校の課題を具体的な研修課題として共有できるよう計画的に実施する。	これまで各分掌がそれぞれで企画・実施していた教員対象の研修を集約し、年間を通じた計画を作成し、実施する。	A	A	<p>●各教科での研修や研究授業を呼び掛けたが、実施を徹底できなかった。</p> <p>●校内研修に対する職員のモチベーションがあまり高くなく、全体的に受身的になってしまい、研究授業や査定授業の職員の参加も少なかった。</p> <p>●校外での研修会などの参加があまり積極的ではなかった。</p>
		研修内容についての各分掌や教員からの要望に基づき、研修会や講演会などを企画し、実施する。	A		
		生徒が抱える課題の解決や教員の資質向上を目指した計画的・組織的な研修を行う。	A		
	日常の教育実践に即した研修課題を、学校全体で解決していくことで、教育実践の充実・改善を目指し、教員間の協働意識を高める。	各教科に対して、年間で数回の研究授業や研修会の実施などを要請する。	A	A	
		それぞれの研修の対象を、全体だけでなく新転任者など経年による分類、講師など立場による分類で実施する。	A		
		人権・同和教育授業を充実させるため、生徒の「人権に関する知的理解」と「人権感覚」の体得を目指した研修を実施する。	A		
	研修に対する各教員の意欲を高める。	県教育委員会・教育センター主催の研修などへの積極的な参加を促す。	B	B	
		全体を対象とした研修だけでなく、希望者を対象とした研修を検討し、企画・実施する。	A		
		研修誌「翠陵」の内容を充実させ、職員研修・各報告を掲載し記録として残す。	B		
総務部	学校訪問等に活用できるように、学校案内を早い時期に完成させる。	平成26年度中に業者選定を行い、平成27年度のなるべく早い時期に各校務部と内容を調整し、発行する。	A	A	<p>●新年度用の学校案内の作成を急ぎ、女子商業の教育内容をなるべく早い段階で中学生とその保護者に説明できるよう準備を行う。</p> <p>●学校内の生徒の動向を保護者を知ってもらうために広報誌を作成するべきであるが、計画的に広報誌が作成できるような工夫をする。</p> <p>●ホームページの更新頻度が落ちているため改善が必要である。</p>
	教務部と連携し、保護者・同窓会・後援会・地域の小中学校の保護者が参加しやすい学校開放の日を設定する。	本校教育へ理解を深めてもらうために、学校開放の日の日程を町内の中学校と同日の原則毎月17日と設定する。	A		
		保護者が来校される行事（4月のPTA総会、1学期末と2学期末の三者面談）がある場合は、学校開放の日をその日に設定する。	A		
		学校開放の日は、同窓会・後援会・地域の小中学校の保護者へも案内し、本校教育への理解を深めていただく機会とする。	B		
	保護者に向けて、本校の取り組みをこれまで以上に知っていただけるように、ホームページや広報誌を有効的に活用する。	本校の教育内容を知っていただけるようにホームページを活用する。	A	B	
		保護者向けにホームページに掲載した画像と文面を活用し、広報誌を作成し、本校の教育内容を知っていただく機会を増やす。	B		

平成27年度 学校自己評価表（実施段階）

那珂川町立 福岡女子商業高等学校

第1学年部	社会人・職業人として通用する、女子商生としてのプライドを育成する。	率先垂範して挨拶の励行に取り組む。	B	B	<p>●欠席は比較的少なかったが、遅刻が非常に多い。各行事や効果的な指導の取り組みで社会人・職業人としての意識向上を図ることが必要である。</p> <p>●学習指導・生徒指導の両面で、指導無視・拒否を繰り返す生徒への対応をどうするか。</p> <p>●部活動入部率は最高時で62.1%（131/211）であり、退部する生徒も多い。</p>
		授業や学校行事、学校生活など、全領域を通して勤労観・職業観を関連付けて指導する。	A		
		さまざまな場面で先輩の姿勢を意識させ、模範として行動させる。	B		
	生徒に関する情報共有を密にし、多方面から生徒を支援できる体制を構築する。	状況に応じて拡大学年会議を行い、情報収集・情報の共有を図る。	B	B	
		家庭との連携を密にして欠席・遅刻・早退の減少につながる生徒支援を実施する。	B		
		各分掌・各係のみならず、中学校や地域・公的機関との協力・連携を図る。	A		
	学習指導・生徒指導・学校行事を通して自己発見の動機付けを行い、得意分野を伸ばす。	苦手意識克服のため、特に学習指導では各分掌と連携しながら、特別指導を実施する。	B	A	
		カウンセリングマインドを重視した指導に取り組む。	A		
		得意分野の伸長を図るため、また人間関係の育成のため、部活動入部を奨励する。	A		
第2学年部	生徒及び、生徒を取り巻く環境の変化（家庭環境・交友関係・部活動の入退部など）に関する情報を学年全体で共有し、指導・支援に活用する。	遅刻・欠席が目立つなど、基本的生活面に課題をもつ生徒に対して個別に聞き取りや指導を行う。	B	A	<p>●主に特定の生徒ではあるが、遅刻・欠席の数が減らないこと。</p> <p>●学習（資格取得も含む）に対する意欲や取り組みにおける個人差が拡大していること。</p> <p>●周囲の状況を察知し、その場に必要となる態度や言動が選択できない場面が、現在も見られること。</p>
		生徒に関する情報や指導経過を可視化し、学年全体で共有することで、効果的な指導体制を構築する。	A		
		各学期に数回、「進路選択」「進路実現」を主題としたキャリア活動や学年集会を実施する。	A		
	進路選択および進路実現に求められる情報の提供を行うとともに、生徒が自分の進路と向き合う機会を断続的に設ける。	上級生や卒業生の実績・実例を紹介することで、進路に関して前向きに考える姿勢を身につけさせる。	B	B	
		進路実現の観点から、学力の向上と定着を念頭に置き、特に学習面での課題を抱える生徒に対しての個別指導や、少人数による学習会等を企画し、実施する。	B		
		常に応じた適切な助言を与え、自己実現かつ進路実現の100%を目指す。	B		
	常に実社会を想定し、身だしなみや言葉遣いに関する指導・支援を行うとともに、学校行事、委員会活動、清掃活動等を通して社会性の涵養を図る。	授業中ではもとより、日常会話の中でも言葉づかいの重要性を意識させ、言語環境の整備を行う。	B	B	
		学校行事や学年行事においては、集団としての目標を常に伝え続けることで、帰属感や社会性を涵養する。	B		
		委員会活動や清掃活動等においては、他者へ気遣いや気配りなども含めた指導を行う。	B		
第3学年部	生徒自身に課題を設定させて学習させる。自学自習の習慣を体得し、進路実現に向けて学習を徹底させるとともに、高資格取得と専門的力量的伸長を図らせる。	退学者0、特別指導者0を目指す。	A	A	<p>●早く進路が決定した生徒に対して進路決定後にしっかり学習や日々の生活に取り組みせ、学年全体の緊張感や3年生としての雰囲気維持することができなかった。</p> <p>●5分前行動などの学校行事で学んだことを授業を始めとする日常生活に活かせていなかった。</p> <p>●進路指導では適宜必要な情報を学年集会や個別面談で生徒に与えることができたが、生徒自身の取り組みが遅く、慌てる姿が見られるため早めに取り掛かる取り組みをするべきだった。</p>
		学業不振者への指導や家庭学習の定着に取り組む。	B		
		欠席・遅刻・早退を減らすために、家庭との連携を密にして協力を得る。	A		
	進路相談や進路講話などを積極的・継続的に実施する。進路指導部との連絡・会議・相談を密にし、生徒に進路目標を具体的に設定させ、実現に適切な選択をさせるための計画を立てる。	計画的に小論文・面接の指導を実施する。	A	A	
		進路希望、適性に応じた具体的な目標を確立させ、個別面談を適時に実施し、生徒一人ひとりの課題を把握する。	A		
		個に応じた適切な助言を与え、自己実現かつ進路実現の100%を目指す。	B		
	学校生活の中で身だしなみを意識させ、社会で通用する基本的なマナーを身につけさせる。規範意識をより高めさせるとともに、当たり前前を当たり前前にできるようにする。	最高学年であることを強く意識し、行事・生徒会活動・部活動などにおいて幅広く経験を積ませ、豊かな人間性の育成を図る。	A	B	
		人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を高め、高校生活を一層充実させ、卒業後の生活に対し自信を持たせる。	B		
		正しい職業観・勤労観の育成と生徒の主体的な活動を支援する。	B		